

岡見小学校だより



は き ょ う
波 響

子どもにつけたい力
こからの時代を生き抜く力

【自治力】ひととつなぐ力
【学力】学びに向かう力
【体力】やりきる力

めざす子ども像
思いやりとやる気

お:思いやりのある子
か:考え創りだす子
み:自らきたえる子

令和5年
7月7日
No.7
(通算No.689)
校長 細川寿俊

岡見小学校の“学び”

図書館を活用した学び

岡見小学校では、学校図書館活用教育に力を入れて取り組んでいます。

学校の図書館は、

「読書センター」「学習センター」「情報センター」

学校図書館の活用という、「読書活動の推進」というイメージを持たれる方が多いのではないのでしょうか。もちろん、読書も大切ですが、学校図書館活用教育では「学習センター」「情報センター」としての図書館の機能も大切にしています。

図書館を活用した授業のイメージは次のようなものになります。

課題・問い：日常の生活や学習から、問いや疑問、解決の必要性のある課題を見出します。

情報収集：図書館の本やインターネットを使ったり、アンケートやインタビューなどを行ったりして、課題解決に必要な情報を集めます。

情報分析・整理：思考ツールを使ったり、友達と相談したりしながら、情報を整理したり、分析したりしていきます。

まとめ・表現：課題解決に向け、分析・整理した内容をまとめたり、伝えるために表現したりします。

ただ単に、先生から提示された問題を解く…のではなく、身の回りの様々な課題を協働して解決していくような総合的な学びの力を目指しています。

【5年生：図書館活用教育公開授業】

グループで意見交換をしながら、情報を整理しています。



たくさんの先生方が5年生の授業を見に来られました。



6年生が図書館活用の学習でまとめた防災ポスターを、岡見小HPに掲載しています。

複式学級での学び

今年度は3・4年生が複式学級です。来年度以降は3・4年生、5・6年生が継続的に複式学級となりそうな状況です。(島根県の規定では、1・2年生は8人以下、3・4年生と5・6年生は16人以下で複式学級となります。)

「渡り(わたい)」の授業

複式学級特有の授業形態に「渡り」と呼ばれるものがあります。一人の担任が、二つの学年を「行ったり来たり」しながら授業をすることからそう呼ばれています。二つの学年を「渡る」のですから、授業時間の半分は担任の先生がいない状態で子供たちは学習していることとなります。

複式学級は損？

こう聞くと複式学級での学びは損をしているように聞こえますが、実はそうでもありません。先生がいない間、子供たちは“自分たち”で学習を進めます。この学習の仕方が、今求められている学びの力につながるものだからです。

昔のように「先生が教えて、子供が習う」という学習であれば、先生が教える時間が短い複式は不利かもしれませんが、「自分たちで課題を見つけ」「自分たちで解決に向かう」という今の学びでは、決して不利にはなりません。

もちろん、複式学級のデメリットもありますが、メリット生かす学びを目指しています。

【3・4年生：渡りの授業(算数)】

4年生は、ガイド役の児童を中心に、自分たちで学習を進めています。

ガイド役の児童が黒板に学習の「めあて」を書いています。



担任は3年生と一緒に学習中です。

※ 新型コロナウイルス、RSウイルス、インフルエンザ、ヘルパンギーナ、などの感染症が流行しています。ご家庭においてもご注意ください。